

## 大きな成果と手応え。 副専攻(実践ビジネス英語)プログラム1期生が修了

2017年度からスタートした「副専攻(実践ビジネス英語)プログラム」の第1期生(18名\*)がこの春、4年間にわたる全課程を修了しました。そこで、本プログラムを主宰する言語センターの田村章センター長と前センター長の水野真木子先生、基盤整備を行った前言語センター非常勤助教の柘植美波先生、修了生の武藤璃緒さん(薬学部5年生)に集まっていただき、この4年間に振り返ってもらいました。

※6年制の薬学部学生(在学中)も含めた人数です。



左から田村章先生、武藤璃緒さん、柘植美波先生、水野真木子先生

※撮影時のみマスクを外しております。

### 専門技能に加えて、グローバル社会に対応できる英語力を身につける

本プログラムの目的は、在籍学科で修得する専門技能とグローバルビジネスの場で活躍できる英語力を併せ持った学生の育成。受講できるのは英語や外国語を専門分野としない11学科から選抜された1学年30名。プログラムは、オンライン英会話とTOEIC L&Rテスト対策(730点目標)などに特化した「実践ビジネス英語」科目を中心に構成。2年次末には、カナダのプリティッシュ・コロンビア州にあるロイヤルロード大学での8日間の「海外ビジネス研修」、4年次には総まとめとして全8回の授業を通して英文レポートを作成します。費用は海外研修費用も含めて全て大学が負担。4年間のプログラムを修了した学生には、卒業時に在籍学科の学位とともに、副専攻プログラムの修了証が大学から授与されます。

### TOEICのスコアアップにも大きな成果

「1~3年次の長期休暇を利用して行う実践ビジネス英語では、フィリピン在住の講師とオンラインで英会話を行います。1ヶ月の間に1日1レッスン(25分)を25日間以上受講しなければなりません」と水野先生。「かなりハードですが、やり遂げることで、強い意志や粘り強さが養われます」と言います。修了生のひとり、武藤さんも「確かにオンライン英会話が一番大変でした。でも、長期休暇の集中講義なので主専攻の勉強とも両立できたし、何より外国人の先生と1対1で英語で話す機会を与えてもらったことは貴重な経験となりました」と振り返ります。TOEIC L&Rテストでは、4年間で6名が初回スコアから200点以上、6名が100~195点アップしました。中には900点超えを果たした学生も。TOEICのスコアアップは自信に

なり、就活でも大きなアピールポイントになったそうです。

カナダでのビジネス研修ではビジネスの場で必要な英語表現やマナーを学ぶ以外に、女性リーダーシップ論やボランティア論など金城学院らしいプログラムも実施。「大学での授業はすごく新鮮だったし、ホームステイも体験でき、楽しかった」と、武藤さん。引率した水野先生も、「現地で学生たちが積極的に英語で話している姿に感動しました。海外研修で以前とは違う自分を発見できたようです」と言います。残念ながら、昨年度はコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、収束したら復活したいということです。



▲海外ビジネス研修最終日の修了証授与式



▲「女性リーダーシップ論」の研修風景

### 培った英語力と持続力は、多様化する社会を生き抜く大きな力になる

「修了生の振り返りアンケートでは、副専攻を受講すれば英語力が必ず上がると書いてくれた学生がいましたが、英語を専門分野としない学科でこれだけ英語力が向上するという例はあまりない。各学科に英語を頑張っている学生がいることで、英語学習に対する大学全体のモチベーションが上がった」と、田村先生。「勉強は辛かったけど周りに仲間がいたから、乗り越えられた」「学生一人ひとりに寄り添い、親身なサポートや手厚い添削をしてくれた助教の先生にも感謝」など、アンケートには修了生たちのさまざまな思いが寄せられました。武藤さんも、「もっと英語力を磨き、外国人への服薬指導や接客ができる薬剤師になりたい」と将来への夢を語ってくれました。副専攻プログラムは4月からまた新たな仲間を迎え、受講生たちは切磋琢磨しながら英語の学習に励んでいます。



## 風が呼んでる。緑が呼んでる。 行こう、みんなの森へ

### 雑木林は子どもたちにとって格別な場所

緑豊かな大学構内にある幼稚園で過ごす子どもたちは、自然とも大の仲良し。幼稚園から歩いて1分のところに、『ペンギン山』と呼んでいる場所があります。また反対方向に歩くこと5分足らずのところには、『みんなの森』と呼んでいる場所も。どちらも子どもたちが繰り返し遊びに行き、名付けた雑木林です。通称名をつけるほど繰り返し通い、遊んだこの雑木林は、子どもたちにとって格別な場所になっています。

### 自然を相手に、遊びがどんどん広がっていく

四季折々の自然に触れられる雑木林では、その時々で遊びの内容が変わっていきます。長い木の枝を組んで、かまどに見たてたキャンプごっこが始まることがありました。ちょうど、年長児がキャンプの準備に取りかかり、園内でキャンプの話が飛び交っていた頃です。また歩きにくい凸凹道を、「修行しているから」と言って登ったり降りたりしていたかと思うと、鬼退治が始まることもありました。TVのアニメが話題になっていた頃です。見立てるのがなんと上手なことでしょ。そして子どもたちは、周りで起こっている事柄をタイムリーに遊びに取り入れています。まさに今を生きる姿です。秋が深まる頃には、落ち葉をたくさん集めて落ち葉のベッドを作り、そこへダイブし、乾いた落ち葉のふかふかした感触を満喫したり、まつぼっくりやさまざまな種類のどんぐりをリスのためにと収集したり。「今度、どうなってるかな…」と次に来る時を楽しみにする子どもたちもいます。おもちゃなど何も要りません。自然が子どもたちの感性や感覚を磨き、様々な遊びへと広げていってくれます。



園のすぐ裏手に広がる雑木林

### 雑木林がすぐ身近にある恵みに感謝

今年度に入り、年長児・年中児はお弁当と水筒を持って、雑木林へ出かけました。たっぷり遊んだ後、木漏れ日の下でいただくお弁当はとても美味しかったようです。「次はいつ行く?」「また行こうね、必ずだよ」「今度は年少さんも連れてきてあげよ」など、雑木林で過ごす時間を楽しみにしています。こうした子どもたちの様子をドキュメンテーションなどを通して保護者に伝え、「子どもから聞いてはいたけど、こういうところなんですね。楽しそう」と喜びや感動の声が聞こえてきます。

この1年、新型コロナウイルス感染症とどう向き合い、過ごしていくかを保育者間で幾度となく議論し、さまざまな方法を考えてきました。そのような中、園外で過ごす計画を立て、雑木林で遊ぶ機会を多く持ったことで、自然が子どもたちをより豊かに育ててくれることに改めて気づかされました。このような雑木林が身近にある恵みや、そこを守り、管理して下さっている方々に感謝するばかりです。これからの保育にも積極的に取り入れていきたいと考えています。

▼自然の中で食べるお弁当、最高!



▲落ち葉集めに夢中な子どもたち



▲セミの抜け殻、発見!

▼子どもたちの活動の様子を紹介するドキュメンテーション



## 生涯にわたって学び続ける力を育てる スタディスキルズ

社会で求められる資質・能力の変化を背景に、教育も大きく変わろうとしています。これまで主流だった一斉授業が見直され、主体的に課題を発見し、解決に導く力を育む授業が増えています。2020年4月より1年生を対象に実施している「スタディスキルズ」もそのひとつ。では、スタディスキルズとは一体どんな授業で、何をどのように学ぶのでしょうか。スタディスキルズ委員のひとり、仲野徳記先生に聞きました。

### 暗記中心の学習から、 知識と知識をつなぎ、考える学習へ

スタディスキルズの実践に向けた準備がスタートしたのは2019年6月。岩見奈津美先生、地頭綾香先生、城万紀子先生、仲野徳記先生、柳瀬公代先生、5名のスタディスキルズ委員が中心となって、ゼロからプログラムを作り上げてきました。

まず、スタディスキルズの目的は3つあります。1つは「学習スキルの向上」。言語技術および情報整理能力を身につけることで、学習スキルの向上を図ります。2つ目は「学習観の転換」。「知識は与えられるものであり、学習の傾向は暗記中心」という従来の学習観から脱却し、「必要な知識を収集・統合し、適切な判断を下しながら課題解決を図る」という新しい学習観への転換を目指します。3つ目の「学び続ける学習集団の形成」では、互いに刺激しあいながら知識を積み重ね、多様な人々と学習集団を形成してほしいという思いのもと、ホームルームとは異なるメンバーでクラス構成をしました。

授業プログラムについては、1学期は「学習方法の形成」をテーマに、質問力の形成と情報整理の方法を学び、他教科にも活用できるように指導。2学期は「文章構造の理解と表現」をテーマに、さまざまな題材を用いて文章を論理的に書く練習



仲野先生のスタディスキルズ授業風景。



や、小論文の外部模試にも取り組みました。3学期は「キャリアプランニング」をテーマに、1・2学期で学んだ情報整理や文章表現力を活用し、自身のキャリアを題材にしながら、自己分析やキャリアプランニングに取り組みました。

### 「社会に参画し、主体的に生きる力」を 育んでほしい

スタディスキルズを通じて生徒たちに伝えたかったことは3つ。1つは、従来の暗記学習から抜け出し、自身の学習方法を確立してほしいということ。2つ目は、正解のない問いに対して、なぜ、そう考えるのか、思考の過程を整理し、適切に表現する力を養ってほしいということ。3つ目は、ここでの学びを他教科や進路選択に活かすこと。培った力で3年間の学びを確かなものにし、生涯にわたって学び続ける足がかりにしてほしいと願っています。スタディスキルズを1年実践して、課題や成果が見えてきました。それらを踏まえて、今年度は少しプログラムを変更。3学期にはDignityとも連携して、10代のための動画学習プログラム [Inspire High] を授業に導入。世界中の多様な大人たちの生き方、考え方にふれることで、自分の世界を広げ、キャリア形成に生かしてほしいと考えています。

## 2020年度卒業生進路状況

今年度の金城学院大学への進学者数は、高大接続型推薦者145名に一般推薦・受験での進学者12名を加えて計157名(卒業生全体の51%)でした。高大接続型推薦では多くの生徒が第一希望の学科に進学することができました。また、「協定校推薦制度」を利用し、

関西学院大学へ11名、同志社女子大学へ4名の生徒が進学をしていきました。

外部受験では国公立大学合格者が名古屋大学1名、岐阜大学3名、東京外国語大学1名、名古屋市立大学3名、など合計19名となりました。私立大学へも、早稲田大学1名をはじめ、上智大学4名、青山



## 「レゴ®シリアスプレイ®」を活用した授業を開講しました

金城学院中学校では今年4月より、Dignityの時間を使って、レゴ®シリアスプレイ®(LEGO® SERIOUS PLAY®)を活用した授業(全学年対象)を実施しています。レゴ®シリアスプレイ®(以下LSP)はデンマークのレゴ社が2001年に開発した新しい学びの手法で、NASAやGoogle、トヨタといった世界の名だたる企業が導入していることでも知られています。そこで、英語科教諭でLSP認定ファシリテータでもある兼元康江先生に、LSPの効果や魅力、進め方などを聞きました。



「ファシリテータの資格をとり、活動を始めたのは2020年の秋。以来、この手法の凄さと、人間の可能性の深さに感動しています」という兼元康江先生。

### 創る・語る・観る・訊く・応える

LSPはレゴ®ブロックを使い、「創る・語る・観る・訊く・応える」というプロセスを通して、自分の関心がどこにあるのかに気づかせ、問う力や課題解決の力をつけていく手法です。例えば4月に行った2年生の授業では「自分」をテーマにしたワークショップを実施。まず手始めにレゴ®ブロックを直感で3つ選び、それを「一年前の自分」「今の自分」「一年後の自分」に見立て、グループ(5~6人)のメンバーに自分の思いを語ります。続いてのワークは、提示された4つの作品のいずれかを選び、同じものを創るというもの。各自が作品を組み立てた後に、それを「自分」と定義し、さらにそこに3つの



4作品からひとつを選び、同じものを創ります。

ブロックを加えることで、自分の「なりたい未来」を表現します。

作品が完成したら、次は「深い海をゆったりと泳いでいる自分」「自分も周りも輝かせたい」などと作品についてのストーリーを語り、メンバー間で質疑応答をします。ファシリテータは時に「なぜ眼が内を向いているの?」といった問いを投げかけ、作品との対話を深めていく手助けをします。この時に大切なことは、視線は人ではなく常に作品に向けていること。これによって語り手も聴き手も作品(話)に集中でき、人前で話すことが苦手な生徒も、作品を介することで自然に話がしやすくなるそうです。

組み立てた作品のストーリーを語る生徒たち。

### さまざまな分野、場面で活用できる

「通常の会議や教室では発言力や影響力の強い人が全体の8割の発言権を握り、会議が進行し、結論に達します。その点、LSPは参加者全員に発言の機会が与えられるので、普段はあまり意見を言わない生徒の思いや能力も引き出せます」と、兼元先生。「ひとつのパーツに意味を持たせて表現したり、組み立てた作品のストーリーを語ることで潜在意識が表れ、気づきが深まること。メンバーそれぞれの思いに耳を傾けることで互いを知り、違いを楽しみながら、相互理解を深めていくことができるのも、LSPの大きな魅力」と話します。課題解決やチームワークを育むなど、LSPはさまざまな研修や人材育成に活用できるほか、各科目、教科の学習や修学旅行時には「平和とは」を考えるツールとしても有効です。英語科でも2021年を「LSPを授業に取り入れる元年」と位置付け、鋭意準備中。LSPの可能性はどんどん広がっていきます。

学院大学9名、立教大学10名、南山大学51名、同志社大学12名などの合格者をだすことができました。また、医学部医学科の合格者は現役・浪人あわせてのべ16名でした。卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。

(進学者実数)

国公立大	私立大	金城学院大学	国公立短期大学	私立短期大学	専修・各種学校	就職	進学準備	その他 (海外留学など)	卒業生総数
16	110	157	0	1	2	0	17	2	305